

2012年度（平成24年度）第1回福山市入札監視委員会会議概要

1 会議名

2012年度（平成24年度）第1回福山市入札監視委員会

2 開催日時・場所

2012年（平成24年）5月29日（火）午後3時～午後3時50分
福山市役所議会棟3階 第5委員会室

3 出席委員

中山委員，相原委員，小島委員，甲賀委員

4 出席した職員

市長部局

建設局長，建設管理部長，農林土木部長，北部支所長，神辺支所長，契約課長，技術
検査課長，沼隈建設産業課長，神辺建設産業課長，北部建設産業課長

上下水道局

経営管理部長，工務部長，施設部長，経理課契約担当課長，配水管整備課長，施設整
備課長

5 会議の概要

（1）建設局長挨拶

本市における公共工事の入札・契約手続については、公平性・公正性の確保、透明性や競争性の向上、さらには品質確保の観点から、一般競争入札の導入、総合評価方式の試行など、様々な改正を行ってきた。入札・契約手続の改善に積極的に取り組んでいるが、まだまだ課題があると考えている。今後においても、この委員会の意見を踏まえる中で、より一層の改善に取り組んでいきたい。

（2）2011年度（平成23年度）の契約状況等について

契約課長から次のとおり説明を行った。

2011年度の福山市発注分の入札件数は905件で、その落札率は83.74%であった。福山市発注分の落札率が2008年度から上昇した要因としては、条件付一般競争入札の対象を順次拡大したことにより、競争性が向上したものの、一方では、過度な低価格での受注による建設労働者や下請業者へのしわ寄せなどの懸念から、2007年度に低入札価格調査制度を廃止し、最低制限価格制度に一元化したこと、厳しい経済状況や雇用情勢に対応するため、2008年度及び2009年度において企業の健全経営に配慮する観点から最低制限価格の算定基準の見直しを行ったことによるものである。さらに、本年4月から最低制限価格の更なる見直しを行ったことにより、本年度の落札率は、昨年度より若干上昇するものと予測している。

上下水道局発注分は150件で、落札率は82.94%であった。上下水道局発注分の落札率は、2008年度が若干高かったものの、2011年度の落札率と概ね1ポイント前後で推移している。

（3）抽出案件の審議

- ア 道路改良工事（鑑線）【総合評価方式】
- イ 道路改良工事（湯野28号線外1路線）
- ウ 道路舗装工事（山野蕪谷1号線）
- エ 出原浄水場管理棟築造工事
- オ 配水管添架工事

アからオについて、契約担当課長及び当該工事担当課長が、それぞれの工事について説明を行った。

- (4) 入札及び契約手続の運用状況等についての報告
指名除外措置運用状況について、契約課長から該当しない旨の報告を行った。
- (5) 次回委員会の開催日時について
2012年（平成24年）9月中旬を目途に事務局で調整する。
- (6) 次回委員会で審議の対象とする工事の抽出方法について
次回の事案の抽出は、2012年（平成24年）4月から7月分を対象とし、甲賀委員が担当する。

6 発言の趣旨

主な質疑応答は、次のとおりである。

抽出案件の審議

ア 道路改良工事（鑑線）【総合評価方式】について

Q1 今回の建設局所管の抽出対象一般競争入札工事のうち、予定価格が最高で、かつ落札率が2番目に高かった工事であり、総合評価方式による落札業者の評価が他の入札参加者のそれに比較していかなる点で優位であったのか、結果として落札率が高くなった事情を含め見解を聞きたい。

A1 この工事は、価格と品質で総合的に優れた調達を促進するため、総合評価方式によることとし、価格と価格以外の企業の施工能力や配置予定技術者の能力、企業の社会貢献度などを総合的に評価することとしたものである。落札者は、企業の施工能力が第2位、配置予定技術者の能力が第3位、企業の社会貢献度が第11位で、合計の加算点が第3位であったが、評価値が第1位となったものである。

落札率が比較的高かった要因としては、本工事は、道路改良工事として積算しているが、直接工事費に占める掘削後の残土処分費の割合が約7割と通常の工事に比べ高かったこと、また、通常の工事の諸経費に比べ、この工事の諸経費の割合が低かったことにより最低制限価格の基準となる価格が高くなったことによるものと考えている。

イ 道路改良工事（湯野28号線外1路線）について

Q 2 土木一式工事の落札率が81%から82%台である中、建設局所管の落札率上位10位中の半分を神辺町内の工事が占め、うち抽出案件は次点である神辺町地内の工事2件と同様に道路改良工事であり、これら3件は他地区の道路改良工事案件と比較して入札業者数が極端に少ないものと見受けられる。こうした状況は神辺地区における何らかの特殊事情を反映しているものではないかと思われるが見解を聞きたい。

A 2 落札率が比較的高く入札参加者が少なかった要因としては、この工事は道路の横断暗渠を施工すること、道路幅員が狭いのに係らず車両等の交通量が多いことなどから、施工に手間がかかること、そういった中で年度末までに施工しなければならないことなどの係わりがあったのではないかと考えている。

また、入札参加者数が少なかった要因としては、その地域の者の方が本市発注工事の施工条件や工事内容をより把握しやすいため、手持ち工事や技術者の状況を勘案し、受注意欲のある者だけがそのことを踏まえ入札を行った結果、このような状況を生じているのではないかと考えているが、引き続き今後の入札状況を注視していきたい。

ウ 道路舗装工事（山野蕪谷1号線）について

Q 3 今回の建設局所管の抽出対象一般競争入札工事のうち、入札参加者数が5社以下の案件が計6件あるが、そのうちの3件は北部建設産業課担当分であり、うち、抽出事案を含む2件は工事種別が舗装工事であって、いずれも落札率が88%台ときわめて高い。北部建設産業課担当分で入札参加者数が極端に少なくなる事情及びそれが自由競争を阻害する可能性の有無について見解を聞きたい。

A 3 この工事の落札率が高かった要因としては、工事場所が山野町の道路舗装工事であり、工事関係車両の移動に時間を要し効率が悪いことなどの係わりがあったのではないかと考えている。

入札参加者数が少なかった要因としては、その地域の者の方が本市発注工事の施工条件や工事内容をより把握しやすいため、手持ち工事や技術者の状況を勘案し、受注意欲のある者だけがそのことを踏まえ入札を行った結果、このような状況を生じているのではないかと考えているが、引き続き今後の入札状況を注視していきたい。

Q 4 この入札に参加できる業者はどのくらいか。

A 4 約30者であるが、そのうち山野町の市内業者は2者である。

エ 出原浄水場管理棟築造工事について

Q 5 今回の上下水道局所管の抽出対象一般競争入札工事のうち、予定価格が最高の工事である。また、落札率も最高ではあったが、建設工事の平均的な落札率と大差はない。このように今回は全体として落札率が低かったように思われるが、特別な事情があったのかどうか知りたい。

A 5 この工事は、50年以上が経過し、各設備が老朽化している出原浄水場の更新事業の1つであり、水質の監視や管理等を行うための管理室と、機械設備へ電気を分配するための電気室を兼ね備えた耐震構造の管理等を新築する工事である。当該管理棟は、浄水場の中枢となる建物であることから、一定以上の品質を求めるため、本市の要綱に基づき同種同規模の施工実績を求め、一般競争入札を実施した。

この工事は、通常の建築一式工事であり、落札率が低かったのは、年度末及び年度初めに、工事の発注が非常に少なくなる時期に備え、工事をぜひとも受注しておきたいという高い受注意欲があったのではないかと考えている。

Q 6 どのくらいの入札者を想定していたか。

A 6 施工実績以外の参加資格を満たすのは約60者であるが、そのうち参加資格で求めた施工実績を有している者は20者程度であった。

オ 配水管添架工事について

Q 7 本件は、出原浄水場管理棟築造工事に次いで予定価格が高く、また落札率も2番目に高い工事であるものの、その落札率は低く抑えられている。入札参加業者数も少なく、この落札率に納まったことが奇異に感じられるが、何か特別な事情があったのかどうか知りたい。

A 7 この配水管は、芦田川より西方面の給水をまかなう基幹管路であり、日常的なメンテナンスが難しいことから、鋼管の溶接等の技術力が高く、迅速で確実な施工ができる者を求めるため、本市の要綱に基づき、同種同規模の施工実績を求め、一般競争入札を実施したものである。施工にあたり、橋梁の架け替え工事と同時施工となるなど、様々な制約を受けた中での工事であり、また、橋桁へ配水管を添架するという技術力を要する工事のため、結果として応札業者が2社になったものと考えている。なお、落札率が83.2%と低くなった理由については、予定価格が1億円を超える高額な工事であるため実績を得たいという理由で、高い受注意欲を持ち、最低制限価格付近で入札を行ったものと考えている。

Q 8 どのくらいの入札者を想定していたか。

A 8 同様の施工実績を有していると確認できている者は7者程度であった。